

隨泉寺寺報

平成 22 年 (2010 年) 9 月号 第 481 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季彼岸会法要

講師 白木町 浄満寺住職 鳴谷慈旦師

講題 『念仏申さば佛となる』

■お彼岸 ～仏道修行をする好機～《先祖のご恩を偲ぶ》

お彼岸は春分の日と秋分の日を中日(ちゅうにち)とし、前後の三日を合わせた七日間をいいます。お彼岸の初日を「彼岸の入り」といい、最終日を「彼岸の明け」といいます。仏教で「彼岸」とは向こう岸に渡るという意味です。迷いのこの世(此岸(しがん))から、川の向こうの悟りの世界に渡るために教えを聞き、自分自身を見つめる好機が本来の彼岸の意味です。

現在、彼岸の日には家族そろってお墓参りをするのが慣習となっています。お墓参りに特の作法はありません。墓石をきれいに洗い、周りも掃除して花や線香を供えます。それから合掌してお念仏を申し礼拝します。

家庭では仏壇を掃除し、花や季節の物、ぼたもち、おはぎ等を供え、故人や先祖のご恩に感謝します。春のお彼岸には「ぼたもち」、秋のお彼岸には「おはぎ」を仏壇に供えます。



9月の法座予定

- 9月12日……………掃除 桑原・瀬野川団地
- 9月14日昼席午後1時より……………秋季彼岸会法座
- 9月14日夜席午後7時より……………出張法座 桑原集会所
- 9月15日朝席午前10時より……………主婦の集い おとき
- 9月15日昼席午後1時より……………秋季彼岸会法座
- 9月17日午前9時より……………灯茶会準備
- 9月23日午後7時より……………灯茶会
- 10月2日午後6時より……………本部役員会

☆百歳おめでとうございます。

九月の第三月曜日は敬老の日です。今年は百歳以上の方が次々と実は行方不明で生死が分からないと社会問題にもなっています。坂本竜馬と同一年の方がおられるとか、百六十歳にもなる人があちこちから書類上では出てこられたり、複雑な感じがします。また三十年以上も亡くなっておられるのにわからなかったというのは、信じがたいものです。敬老の日というのは〈多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う〉日です。それが何となく長寿を祝うというより、まるで社会のお荷物のように言われるのは、何か悲しいことです。

荒野の植木岩男さんが9月11日にめでたく百歳を迎えられます。1ヶ月前の8月11日にお祝いの法要を催されました。私もお参りさせていただき、子や孫、ひ孫と総勢三十名ぐらいの家族の皆さんと一緒に仏様や御先祖様にお礼を申され、お祝いをいたしました。

植木さんは明治43年の9月11日生まれでこの年に隨泉寺の本堂の棟上げがあったそうです。ですから隨泉寺の本堂と一緒に明治、大正、昭和、平成と百年生きてこられたわけです。戦争にも行かれ、戦後は国鉄に勤められ、その後電機大学や、ルンビニ幼稚園などにもお勤めになりました。隨泉寺の責任役員、総代、門信徒会会長等歴任してくださり、私が本願寺で住職に補任された時も一緒に上山して、御門主様から辞令を受取っていただきました。



当日植木さんは一緒にお仏壇にお参りになり、讃仏偈をお勤めになりました。お経本は持たずとも覚えておられるので、声を出してお勤めでした。こんなうれしい法要は初めてで、とても楽しいひと時でした。

☆大好きなおばあちゃんへ 坪池 良希

自分にとっては自慢の祖母です。なぜかと言うと、祖母は戦時中の中で生まれ、生き残ったパワフルな人です。たいがいの人は当時のことは話してくれないけど、何でも話してくれたよね!! 1945年8月6日の8時ごろ呉市上空の広島方を見ると上空にB-29の観測機が天気を調べる為にパラシュートがゆっくりと落下 その後にB-29のエノラゲイ号が原爆を投下し1500mで炸裂!! まずとてつもない光そののち爆音がすごかったと語っていたね。生まれた時からつらい時代に生まれ、自分が生まれた時は、26年間大事にしてくれてありがとう おばあちゃん

☆御礼

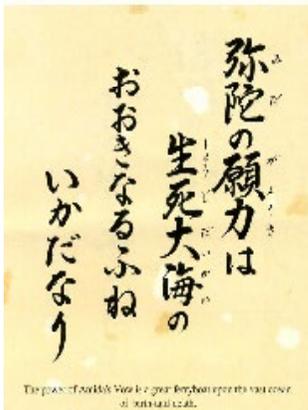
永代経懇志 金 拾萬円 岡田康子殿 故 岡田公平様 特 永代経志として
永代経懇志 金 拾萬円 西川和彦殿 故 西川悦子様 特 永代経志として
永代経懇志 金 拾萬円 馬場秀樹殿 故 馬場トコ様 特 永代経志として

☆御礼

9月

弥陀の願力は 生死大海の おおきなるふね いかだなり

『尊号真像銘文』（註釈版聖典 670 貫）



昔は、長生きをすることは素晴らしいことでした。誰もが長寿を願い、若い人たちは老人を敬っていました。最近、長寿社会になったためか、老人は今の社会をつくつた人として、敬われるべきはずなのに、昔ほど敬われていません。また年配の方の中には、老年を楽しむがごとくに心豊かに生きておられる方もいますが、「早く死にたい」「いつ亡くなってもいい」という方もいます。

私の周りには、五十代で亡くなった人が何人かいます。みな家族を残しています。大病を患いながら、亡くなる二日前まで仕事をしていた人もいます。何れもまだ死にたくはなかった人たちです。

お釈迦さまは「人生は苦である」といわれました。この「苦」とは、心身のさまざまな苦を含めて、思いりにならないという意味があるそうです。

誕生を取り上げても、気がつけば、人間として今の時代に生を受けていたのであって、思いり誕生した人はいません。死も同様で、思いりになるものではありません。

死のときばかりではありません。もう少し足が長ければ、ファッションモデルになれたのという人、もう少し学力があれば、希望の大学に進学できたのという受験生もいます。余計なことをつい二言ほどいってしまって、いつも人に誤解される人。逆に、肝心なときに、二百がいえなくてつらい思いをする人。思いりにならない様相は、あげればきりがありません。

阿弥陀如来は、このような私たちに願いをかけておられます。それは、まかせよ必ず救うという誓願です。この誓いは、浄土で救うということだけではありません。今の私に仏への道を開くという誓いです。

この誓いは、船に例えられます。思いが遂げられず苦しんでいても、自分の理想に近づいて満足感があつたとしても、取り返しのつかないことをして後悔していても、何が起ころうとも、願いの船に乗っていますと、海に沈むことなく進んでいきます。

私自身のことを考えても、日々の生活の中で、自分の煩惱を見せつけられて、つらい思いや恥ずかしい思いをすることがあります。心から反省をして、二度と同じ

ことは繰り返さないと思っても、また気がつけば、同じことをしています。

このような私が乗っても、私を沈めたり、海に投げ出したりすることのない船、すなわち「弥陀の願力は 生死大海のおおきなるふね いかだなり」といわれる船は本当に大きな支えになります。

☆母を偲んでの思い出

坪池さな江

戦前戦中戦後を生き抜いてきた人生。

呉で原爆のきのこ雲を見ての驚愕の想い。

この時代を生き抜いた人々にとっては、今の時代は夢のような時でしょう。しかしお母さんは強かった。

お母さん、この一年間、よく頑張ってきましたね。もう十分だね。お母さんの入院をして沢山の方々との出会いを私もいただいたよ。

広島大学病院では、長期入院患者だったけど、病棟の看護師さんたちから「廣本さんは、広大のアイドルだからね！！」と皆さんから愛されていましたね。

やんちゃで、時々頑固で、ユニークで、先生に対して「好きー」と素直に言って先生もタジタジでまわりの先生やリハビリの先生、看護師さんが、笑っていましたね。

可愛いお母さん、全てが私にとって忘れない親子の思い出です。唯一 世界でたった一人のお母さん、今、お母さんに言えることは、私たちを支え守り愛し続けてくれたお母さんに、心から感謝致します。@ ‘お母さん ありがとう ありがとう、これからはしっかりとバトンを引き継いで生きてゆきますね。お父さんを守ってあげてね。良く頑張ったね。大らかで明るい肝っ 母さんご苦労様でした。

お婆ちゃんの思い出

坪池祐希

まだお婆ちゃんが元気で歩いて追い付けない時を鮮明に覚えているよ。一緒によく買い物に行ったよね。ICUに入った時に、お婆ちゃんの姿を見たときは心を痛めたよ。本当に良くなるのか最初は不安だったよ。でもお婆ちゃんの回復は、本当に驚いたよ。始めは流動食だったのに、お粥から普通のご飯になったのは、自分も元気になったよ。よくお母さんと交代して 会して相撲も見たね。あの漫才リハビリが楽しかったよ。お婆ちゃん本当にお疲れさまでした。8回も転院し色々な病院で先生や看護師さんのアイドルになりましたね。お婆ちゃんは自分にとっては、第二の母です。まだ自分が赤ちゃんの時お婆ちゃんがよく見てくれましたよね。長男の良希はお母さんで次男である自分はお婆ちゃんです。素晴らしい連携です。お婆ちゃんありがとう！！強き母で時には頑固で、可愛いお婆ちゃんが大好きです。次はお母さんとおじいちゃんは良希と自分が支えます。お婆ちゃんありがとう！！お疲れ様。